


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

| | |
|---|--|
|  | <p>保育科 専任講師</p> <p>末岡 尚文 (すえおか なおふみ)</p> <p>SUEOKA Naofumi</p> |
| 所属 | 保育科 |
| 学位 | 修士(教育学)(東京大学) |
| 資格・免許 | — |
| 学歴・職歴 | <p><学歴></p> <p>2017年 3月 東京大学教育学部基礎教育学コース 卒業 (学士(教育学))</p> <p>2019年 3月 東京大学大学院教育学研究科基礎教育学コース修士課程 修了 (修士(教育学))</p> <p>2024年 3月 東京大学大学院教育学研究科基礎教育学コース博士課程 単位取得後退学</p> <p><職歴></p> <p>2020年 4月 日本学術振興会 特別研究員(DC2)(2022年3月まで)</p> <p>2022年 4月 日本児童教育専門学校 兼任講師(2023年3月まで) (担当科目: 教育原理)</p> <p>2022年 5月 東京大学大学院教育学研究科 特任研究員(2023年3月まで)</p> <p>2022年 10月 横浜保育福祉専門学校 兼任講師(2023年3月まで) (担当科目: 道德教育)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師(現在に至る)</p> |
| 担当科目 | <p>保育原理 保育職論 教育課程論 教職実践演習(幼・小)</p> <p>保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅱ(保育所)</p> <p>幼稚園教育実習指導 幼稚園教育実習Ⅰ 幼稚園教育実習Ⅱ</p> <p>基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 社会人基礎力育成講座Ⅰ・Ⅱ</p> <p>現場研修Ⅰ(専攻科) 修了研究(専攻科・補助教員)</p> |
| 専門分野 | 教育学 |
| 現在の研究テーマ | 教育史、教育実践、子どもの権利 |
| 競争的資金等の研究課題 | — |
| 所属学会 | 日本教育学会 障害学会 日本学校教育学会 |
| メッセージ | <p>日々の生活を通じて成長するのは、子どもも大人も同じです。短大には様々な知識や価値観、経験を持った人が集まっています。ぜひ、多くの人と交流し、沢山のことを学び、自らの考えを深め、興味のあることにはどんどん挑戦してみてください。</p> |

| | |
|-----------------|--|
| 教育 | |
| 2025年4月～2026年3月 | |
| 教育方針 | 教科書等の知識を身に付けるだけでなく、それらをもとに自分自身の理論を構築し実践する力を持った保育士・教員を養成する。 |
| 授業 | <p>授業の工夫</p> <p><保育原理> 「保育」に関する基礎的な知識の獲得に加え、それらが実際の保育実践や社会全体においていかなる意義や関わりを持っているのかを把握するために、関連する保育実践やニュース等の映像などを積極的に活用し、授業の内容を多面的に把握・考察できるように努めている。</p> <p><保育職論> 「保育職」の意義や役割を多面的に捉え、授業を通じて自分なりの保育者像を構築していくことを目指して、学校や施設などの取り組みを題材に、グループでの話し合いやコメントシートの活用を通じた意見交換を行い、学生が相互に学び合う時間を設けている。</p> <p><教育課程論> 教育課程の変遷の検討を通じて、教育の目的・内容・方法などがどのように変化していったかを検討するとともに、文献記録や映像記録等を活用して具体的な教育実践の様子を観察することで、教育現場における教師の役割や授業の展開のあり様などを考察している。</p> |
| | 授業改善のための取組 |

| 教育 (つづき) | |
|-----------------------------|--|
| 2025 年 4 月～2026 年 3 月 (つづき) | |
| ゼミ | <p>ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)</p> <p><卒業演習Ⅰ> 近年の教育・保育に関する文献や、社会的な課題について言及した映像などをゼミ全体で確認することを通じて、学生がそれぞれの興味・関心を深めるとともに、資料収集の方法や執筆時の注意点等を共有し、卒業レポート執筆に向けての基盤づくりを行った。</p> <p><卒業演習Ⅱ> 前期は各学生が図書館等で文献を調査した結果を発表し、卒業レポートのテーマを決める作業を行った。後期には各学生の進捗報告や、ゼミ全体での議論など、学生同士が相互に協力し合いながら、より完成度の高いレポートの完成に向けた作業を行った。</p> <p><修了研究(補助教員)> 各学生の興味・関心に基づき、文献資料やインタビュー調査などをもとにした論文の執筆を進め、それらの成果をゼミ内で発表しあった。各回のゼミでは学生たちへの個別指導を行うとともに、学生同士が議論やコメントを行い、論文の完成度を高め合った。</p> <p>2025 年度の全国保育士養成協議会関東ブロック協議会主催「第 39 回学生研究発表会」において、指導学生が研究成果を発表した。</p> |
| | <p>卒業レポート・ 修了研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とオーストラリアの保育の違い ・子どもの貧困がもたらすもの—子どもへの影響と支援について— ・子どもの主体性をはぐくむ環境と保育者の関わり ・スウェーデンと日本の教育の違いについて—現場の実態から考える— ・子どもの心の発達—保育者の関わりによる影響とは— ・幼児期の運動遊びが身体発達に与える影響—保育者の関わり— ・自己肯定感と自己表現の関係 ・言葉がけが子どもに与える影響—保育者の言葉がけに焦点を当てて— ・子どもの問題行動の背景について考える —愛着障害を抱える子どもたちの行動とその支援— ・児童相談所における不登校児童生徒支援に関する—考察 ・人的環境としての実習生が保育現場に与える影響についての—考察 ・児童発達支援センターにおける不適切保育対策に関する—考察 |
| 課外活動 | ウインドブラスアンサンブル 顧問 |
| 2025 年 3 月以前 | |
| 主な教育業績 | — |

| 研究 | | |
|--|-----------|---|
| 2025年4月～2026年3月 | | |
| タイトル（単著・共著） | 年月日 | 発行所、発表雑誌、発表学会等 |
| （学術論文）（査読付） 就学運動を通じた教育実践における障害児の意志や要求の位置づけー小学校教員・篠崎恵昭の教育実践の記録に着目してー （単著） <外部リンクあり> | 2025年 7月 | 研究室紀要 第51号（pp.63-73） 東京大学大学院教育学研究科教育学研究室 |
| 2025年3月以前（主なもの） | | |
| タイトル（単著・共著） | 年月日 | 発行所、発表雑誌、発表学会等 |
| （著 書） 日本の海洋教育の原点ー道德編ー （共著） | 2025年 3月 | 東信堂 担当部分：第2章「中学校道德教科化以前の東京書籍副読本における海洋教育教材の位置づけ」（pp.57-87） |
| （著 書） 教師と学生が知っておくべき教育原理 （共著） | 2024年 3月 | 北樹出版 担当部分：第14章「現代社会と教育の課題2：情報化・グローバル化する社会と教育の変化」（pp.119-126） 第15章「現代社会と教育の課題3：マイノリティの権利保障と学校・社会の問い直し」（pp.127-135） |
| （著 書） 障害児の共生教育運動ー養護学校義務化反対をめぐる教育思想ー （共著） | 2019年 11月 | 東京大学出版会 担当部分：第7章「『ぼくはにんげんだ』ー金井康治の就学闘争二〇〇〇日ー」（pp.137-158） |
| （学術論文）（査読付） 障害児の普通学校就学運動を通じた「共に生きる」教育課程の構成要素と課題ー城台美弥子の教育実践の記録に焦点を当ててー （単著） | 2024年 3月 | 山梨学院短期大学研究紀要 第44巻（pp.55-63）山梨学院短期大学 |

| 研究 (つづき) | | |
|--|----------|---|
| 2025年3月以前 (主なもの) (つづき) | | |
| タイトル (単著・共著) | 年月日 | 発行所、発表雑誌、発表学会等 |
| (学術論文) (査読付) 障害児の普通学校就学運動における子どもたちの声の聴き取りの意義ー止揚学園の「教育権運動」における障害児・健常児の記録に焦点を当ててー (単著) <外部リンクあり> | 2021年12月 | 教育学研究 第88巻第4号 (pp. 104-115) 日本教育学会 |
| (学術論文) 障害児の高校進学と「教育を受ける権利」の保障ー「浦高問題」における血友病患者大西赤人の主張に着目してー (単著) <外部リンクあり> | 2021年3月 | 東京大学大学院教育学研究科紀要 第60巻 (pp. 413-422) 東京大学大学院教育学研究科 |
| (学術論文) (査読付) 普通学校就学運動から見る障害児の意志ー金井闘争に焦点を当ててー (単著) <外部リンクあり> | 2018年7月 | 研究室紀要 第44号 (pp. 83-94) 東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室 |
| (その他: 報告) 障害児の普通学校就学運動における子どもの権利と親の立場ー「障害者の教育権を実現する会」の運動に焦点を当ててー (単独) | 2024年8月 | 日本教育学会 第83回大会 (オンライン開催) |
| (その他: 学会発表) 障害当事者運動を通じた戦後学校教育の問い直しー成人障害者の普通学校就学運動に焦点を当ててー (単独) | 2023年8月 | 日本教育学会 第82回大会 (オンライン開催) |
| (その他: 研究ノート) 1970年代における障害児「共生保育」の意義と展開ー聖愛園の実践記録に焦点を当ててー (単独) <外部リンクあり> | 2023年4月 | 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告 (pp. 9-19) 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター |
| (その他: 翻訳) インクルージョンの指針ーインクルーシブな価値に基づく学校づくりガイドー第4版 (共同) | 2022年5月 | 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター |

| 研究 (つづき) | | |
|--|-----------|--|
| 2025年3月以前 (主なもの) (つづき) | | |
| タイトル (単著・共著) | 年月日 | 発行所、発表雑誌、発表学会等 |
| (その他：解説) 気になる！教育関連用語解説 インクルーシブ教育 (単独) | 2022年 5月 | 教職研修 第597号 (p.71) 教育開発研究所 |
| (その他：学会発表) 障害児の普通学校就学運動と就学訴訟－「長崎訴訟」を中心に－ (単独) | 2021年 8月 | 日本教育学会 第80回大会 (オンライン開催) |
| (その他：報告) インクルーシブな学校改革の検討－“Index for Inclusion 4th edition”の「学びと参加に対するバリア」の議論から－ (共同) <外部リンクあり> | 2020年 11月 | 院生プロジェクトワーキングペーパー (2019年度) (pp.74-89) 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター |
| (その他：学会発表) 障害児の普通学校就学と地域で「生きる」ということ－梅谷尚司の就学運動に焦点を当てて－ (単独) | 2020年 8月 | 日本教育学会 第79回大会 (オンライン開催 (要旨掲載のみ)) |
| (その他：学会発表) 障害児の高校進学における当事者の意志と直面する困難に関する歴史的考察－「大西赤人君浦高入学不当拒否事件」に焦点を当てて－ (単独) | 2019年 8月 | 日本教育学会 第78回大会 (於：学習院大学) |
| (その他：学会発表) 障害児にとっての学校の持つ意味－脳性まひの少年金井康治の普通学校就学運動に焦点を当てて－ (単独) | 2018年 9月 | 日本教育学会 第77回大会 (於：宮城教育大学) |

| |
|---|
| 社会貢献 |
| 産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等 |
| 2025年4月～2026年3月 |
| ・山梨県幼児教育センター「幼稚園・保育所等子育て支援研修会」講師（2023年9月） |
| 2025年3月以前（主なもの） |
| ・「港区教育史 見る・知る・伝える ～港区教育アーカイブ～」(東京都港区教育委員会) 監修 (共同) |
| 受賞 ※個人、所属団体 |
| — |